

考え方

入会サポートの効果もあり、入会者数は増加傾向にあるものの、退会者数も増加した結果、会員数は微減の傾向に留まっている。

自動車技術の変化に伴う会員ニーズの変化に対応し、各活動における新たな技術領域との接点を増やすことも含め、満足度の向上を目指す。

将来を担う若い会員・参加者(小中高生含む)へ向けたイベントをさらに充実し、自動車技術会の認知度の向上とあわせて、会員数の増加を目指していく。

主要施策検討のポイント

- ・ 人財育成の場の拡充
 - ・ 中高生向けプログラム（社会活動）
 - ・ 若手エンジニアの育成（試走会）
- ・ 会員サービス向上
 - 要望の反映：
 - ・ 電子ブック活用、新たな技術領域（支部報）
 - ・ 新技術領域含めた広範なテーマ設定（講演講習会）
 - ・ 新たな技術、価値観を知る見学会（見学会）
- ・ 会員数増への取り組み
 - ・ 本部入会サポートの活用の働きかけ、新規入会者向けの行事追加
 - ・ 会員満足度向上による退会者数抑制

目的：自動車技術と社会の発展に貢献する

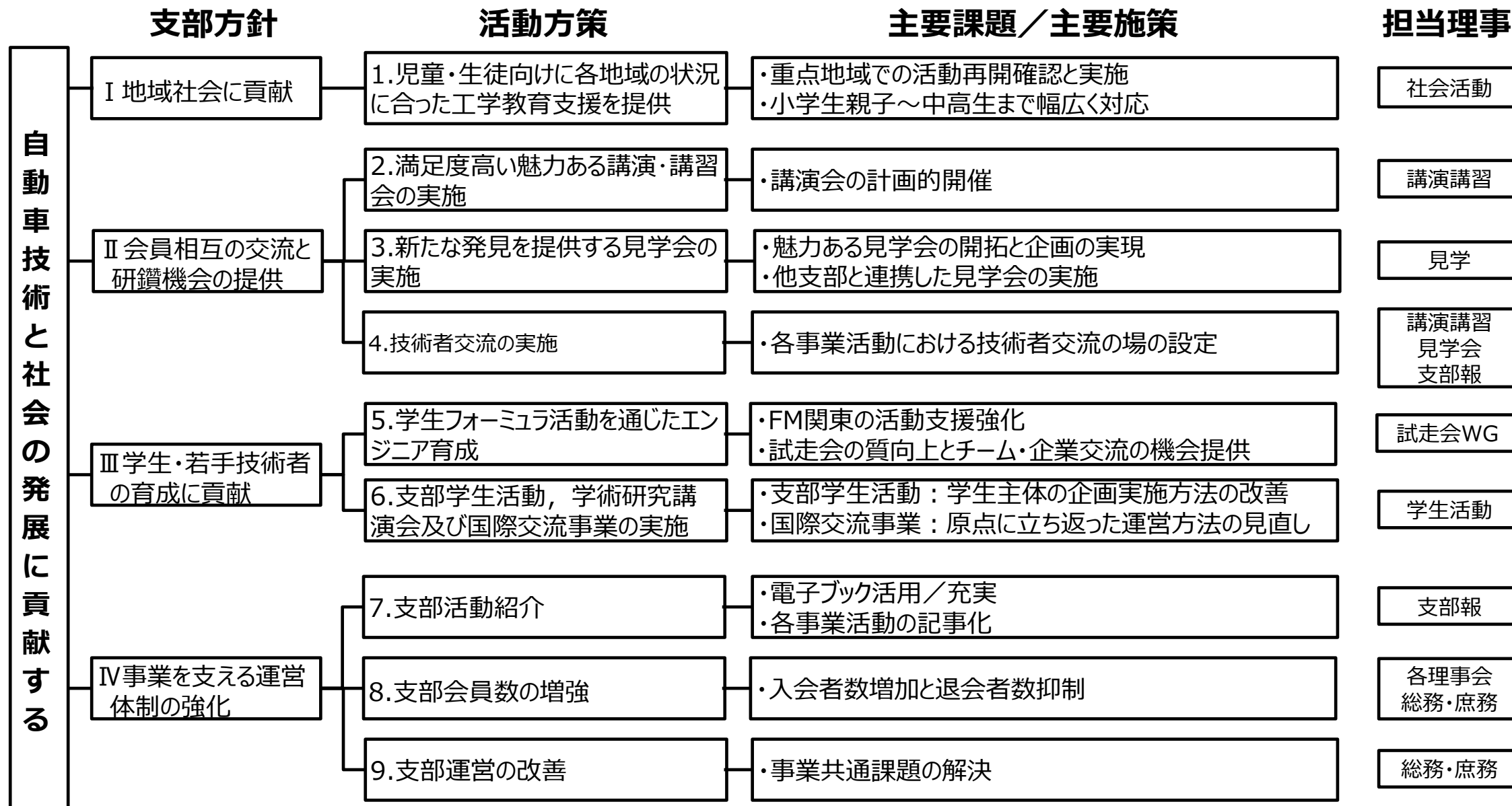
支部方針

- I. 地域社会に貢献
- II. 会員相互の交流と研鑽機会の提供
- III. 学生・若手技術者の育成に貢献
- IV. 事業を支える運営体制の強化

活動方策

1. 地域状況にあった児童・生徒向け工学教育の提供
2. 人財育成の場としての技術者交流会の拡大
3. 満足度の高い魅力ある講演・講習会の実施
4. 新たな発見を提供できる見学会の企画
5. 学生フォーミュラ活動を通じたエンジニア育成
6. 学生活動、学術研究講演会、国際交流事業の実施
7. 支部報などによる支部活動の紹介
8. 会員数の増強

2025年度支部方針実現に向けた系統図



2024年度 振り返り	1. 支部会員数の増強 入会サポートの効果もあり、入会者数は改善傾向。一方で退会者は急増している 2. 支部運営の改善 関東支部の理事全員から意見をいただいて、関東支部の課題を抽出
------------------------	--

2025年度 事業計画

企画方針	事業を支える運営体制の強化
運営方針	・支部会員数の増強 ・支部運営の改善
主要課題	1. 入会者数増加と退会者数抑制 2. 事業共通課題の解決 3. 小中高生向け行事の実施（特命活動）
主要施策	1. 入会サポートの周知活動継続と退会理由の分析＆対応検討 2. 事業共通課題の対策実行 3. 1) エコ1チャレンジカップの参加チーム拡大検討 2) キッズエンジニアへの出展継続

2024年度 振り返り	・年度計画からの変更：開催先都合により、3イベントを中止または延期。 ・下期4イベントが3月に集中したが、25年度11イベント実施。 課題：イベント開催日の平準化
----------------	---

2025年度 事業計画

企画方針	「関東支部ならではの魅力ある講演・講習会」を企画する
運営方針	運営方針 ・「専門的、技術的」、「先進的、広範」テーマをバランスよく配分する ・対面型を中心に企画し、Web開催も活用してイベント参加を容易にする
主要課題	講演会の計画的開催
主要施策	1. 講演会の開催 ・開催時期のローテーション化と計画精度向上 ・実施の支援向上とフォローアップ 2. 講習会の開催 ・年3イベントの定着化 3. 課題解決 ・マニュアル更新

2025年度 事業計画 見学会

2024年度 振り返り

実施済行事（件数）：見学会 10 ※、技術者交流会 3
行事参加者（人数）：275（前年度から、40名増）
総合満足点：4.42（4～2月実施分）
見学先業種：完成車工場、鉄道、重工業、加工機器、廃棄物再生、マテハン、検査場・・・

※講演講習会合同 1 含む

※石坂産業は交流会でカウント

2025年度 事業計画

企画方針	「新たな発見を提供できる見学会」の企画
運営方針	「新しい視点、新しい感覚を吸収できる見学会」の運営
主要課題	1. 魅力ある見学会の開拓と企画の実現 2. 他支部と連携した見学会の実施 3. 技術者交流会の企画改善（石坂産業 見学会＋交流会）
主要施策	1. 見学先との折衝を実施、一般見学会との差別化を図る 2. 東北支部との合同見学会開催 3. “異文化を知る” 見学会 ＋ “充実化を図る” 交流会の場として継続実施

2024年度 振り返り	・電子ブックへ一本化し収支改善(冊子版は休刊扱い) ・座談会イベントの開催時間(半日→終日)を延長し参加者交流の場を充実 ・読者とのコミュニケーションを意識した“関東支部報通信”の掲載開始(高翔83号～)
----------------	--

2025年度 事業計画

企画方針	・会員相互の交流と研鑽機会の提供 ・事業を支える運営体制の強化
運営方針	・技術者交流の実施 ・支部活動紹介
主要課題	1. 電子ブックの活用/充実 2. 各事業活動の記事化(技術者交流活性化へ寄与)
主要施策	1. 電子ブックの特長を生かした画像、動画、リンクの充実 2. 旬な話題の提供と支部事業活動の紹介内容拡充 3. 魅力的な記事掲載に向けたアンケートの継続と支部報へのフィードバック 4. 中部支部との連携による支部報の課題解決、及び魅力度向上に向けた施策検討 5. 非会員への一部一般公開検討/推進(支部報の認知度向上)

2024年度 振り返り	・くるま未来体験教室 開催 計画7回 実績6回（新潟栃木横浜札幌仙台東京） ⇒ 山梨は開催時期が合わず(今後も含め)見送り、理事の居る群馬で開催検討 ・中高生向けプログラミング教室として、本部教育会議と連携しトライアル開催 ⇒ 3末に開催済、内容と担当理事の習熟のためトライアル継続、募集が大きな課題
----------------	---

2025年度 事業計画

企画方針	地域社会の次世代育成に貢献
運営方針	児童・生徒親子向け、各地域の状況に合った工学教育支援を提供
主要課題	1. 重点地域での活動実施（新潟、栃木、群馬ほか） 2. 小学生親子～中高生まで幅広く対応
主要施策	1. くるま未来体験教室 [計画年6回開催] 重点地域での開催（新潟、栃木ほか） 2. 体制検討（退任理事対応ほか） 中高生向けプログラム（トライアル継続と本格実施） AI対応デモ進化（画像認識による自動走行）



2024年度 振り返り	学自研ではコロナ禍で実施が難しかったイベント企画が徐々にではあるが実施できるようになってきた。学術研究講演会ではさらなる運営効率化を検討する。国際交流事業では渡航時期や渡航費用分担案を継続検討する。
----------------	---

2025年度 事業計画

企画方針	支部学生活動，学術研究講演会及び国際交流事業の一層の活性化により，明日を担う若手研究者・技術者の育成を図る
運営方針	・学生会員に自動車技術への関心をより深めてもらう ・学生自らが主体的に活動できるように支援する ・国際交流事業を通して，学生間の国際的技術交流の構築を目指す
主要課題	1. 学自研(学生委員会)： 学生主体の企画実施方法の改善 2. 学術研究講演会(ICATYE)： 運営効率化と運営方法の継承 3. 国際交流事業： 原点に立ち返った運営方法の見直し
主要施策	1. 新規企画の実施方法(進め方)の検討 2. 申込フォームや前刷原稿のファイル管理システムの検討 周辺領域研究分野のセッション組みの検討(継続) 3. 募集時期・方法の見直し 交流内容の見直し

2024年度 振り返り	学生主体の試走会運営が定着したが、模擬車検や大会同等の走行機会や安全性確保など試走会の質向上には備品の充実と企業スタッフの協力が必要。そのためには、今年度は大幅な費用削減優先で実施したが、従来の3支部合同試走会での必要品と経費を明確にする。 車両製作に直結する講座は充実してきたが、EV関連やマネジメントを含めた幅広い分野の講座が不足している。一方では、企業からは学生との交流の場の要望もあるので、エンジニア育成を明確にして試走会に限らず協力を広く企業に呼びかけるとともに技術交流やリクルートの機会となる企業との交流を広げる必要がある。
----------------	--

2025年度 事業計画

企画方針	学生フォーミュラ活動を通じたエンジニア育成
運営方針	学生フォーミュラメンバー（学生会員）の満足度向上
主要課題	1. 模擬車検、大会同様の走行体験不足 2. 講習会／交流会の事務局体制不足 3. 既協力企業以外への協力依頼不足
主要施策	1. 合同試走会の費用と効果の再検証に基づく試走会質向上 2. FM関東および試走会WGの連携強化 3. リクルート・ものづくり支援を視野にいたした企業交流の場の検討